

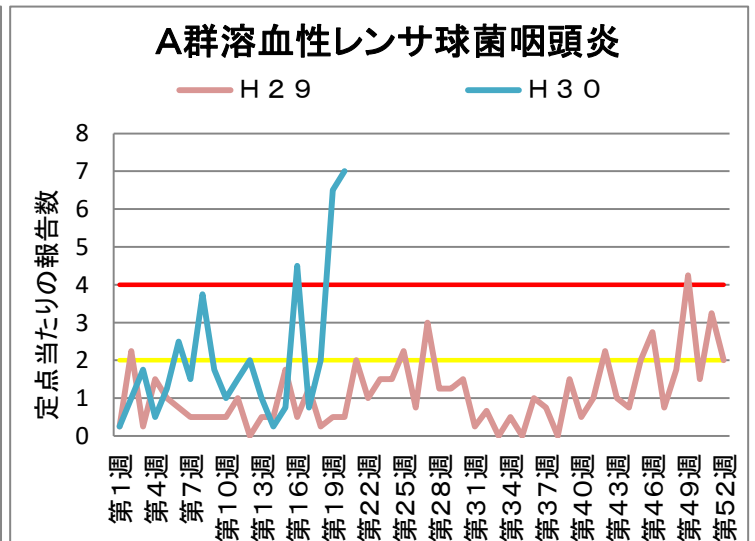
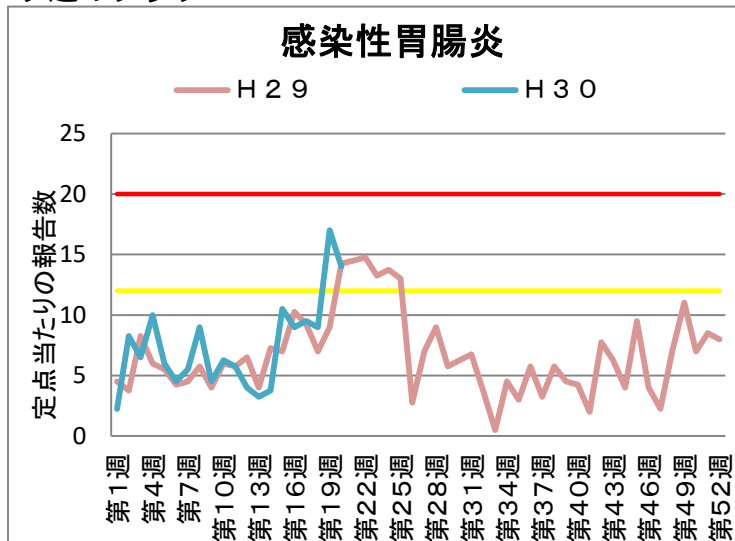
乙訓保健所管内の感染症発生動向調査による週報 (小児科定点、インフルエンザ定点)

第 20 週 平成30年5月14日 ～ 平成30年5月20日

今週のコメント

- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告は3週連続で増加し、定点当たり7.0でした。
- 感染性胃腸炎の報告は、やや低下しました(定点当たり17.00)。
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、突然の発熱、のどの痛み、全身倦怠感によって発症する小児に多い感染症です。かゆみを伴う赤い発疹が全身の皮膚にあらわれることもあります。治療には抗生物質が有効です。腎炎などの合併症を防ぐため、症状が改善しても主治医に指示された期間、抗生物質をのむことが大切です。予防には、手洗い、うがい、咳エチケットを心がけましょう。
- 国内で麻疹(はしか)の発生が続いています。麻疹はワクチン接種により予防可能な感染症です。定期接種対象の1歳児と年長児さんは、速やかにワクチン接種を受けておきましょう。

今週のグラフ



* 赤線は流行警報基準値です 黄線は警報継続基準値です

今週の報告状況

疾病名	定点当たりの報告数	疾病名	定点当たりの報告数
インフルエンザ	0.57	手足口病	0.25
RSウイルス感染症	-	伝染性紅斑	0.25
咽頭結膜熱	0.25	突発性発しん	1.75
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	7	ヘルパンギーナ	-
感染性胃腸炎	14	流行性耳下腺炎	-
水痘	0.75		

定点当たりの報告数 = 1週間の報告件数総数 / 定点数

* 乙訓管内 インフルエンザ定点数：7箇所、小児科定点数（インフルエンザ以外の疾病）：4箇所

参考資料等

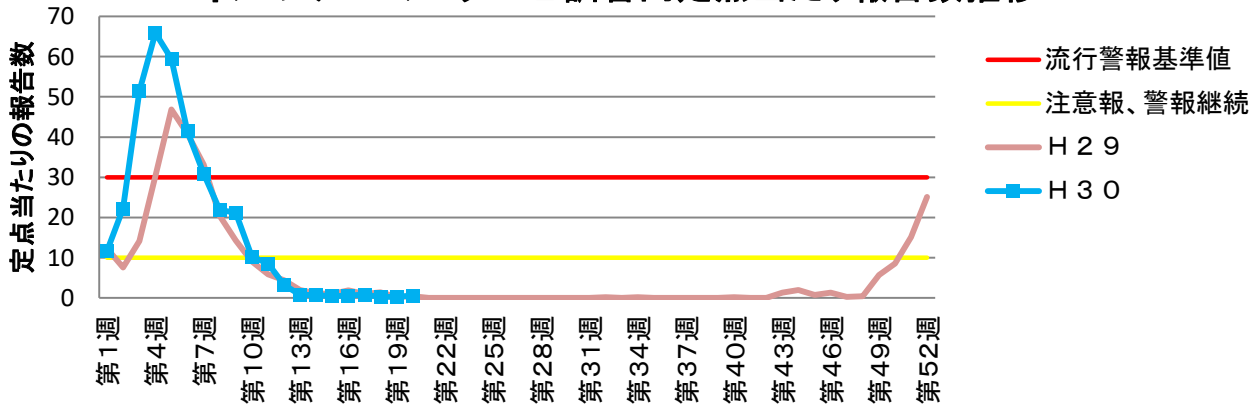
報告週対応表

警報・注意報基準値の説明

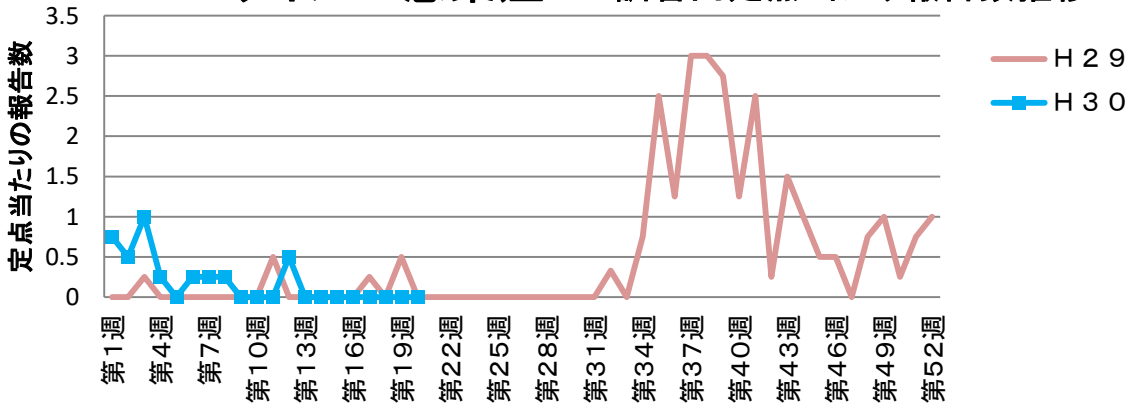
<http://www.nih.go.jp/niid/ja/calendar.html>

<http://idsc.nih.go.jp/disease/influenza/inf-keiho/guide03.html>

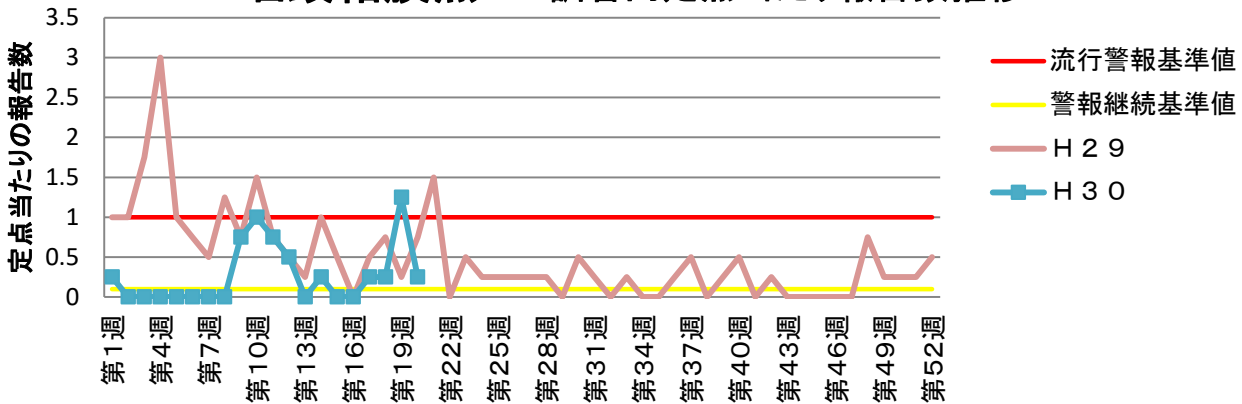
インフルエンザ 乙訓管内定点当たり報告数推移



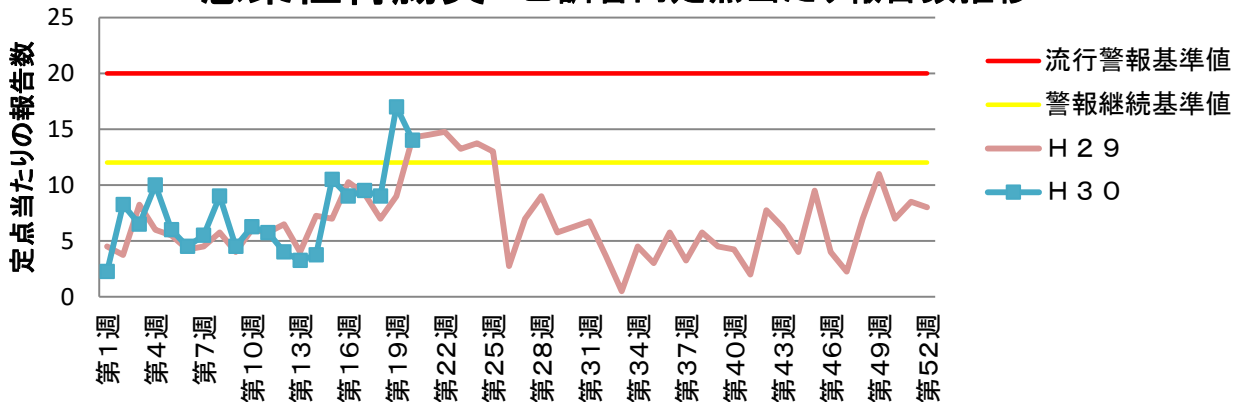
RSウイルス感染症 乙訓管内定点当たり報告数推移



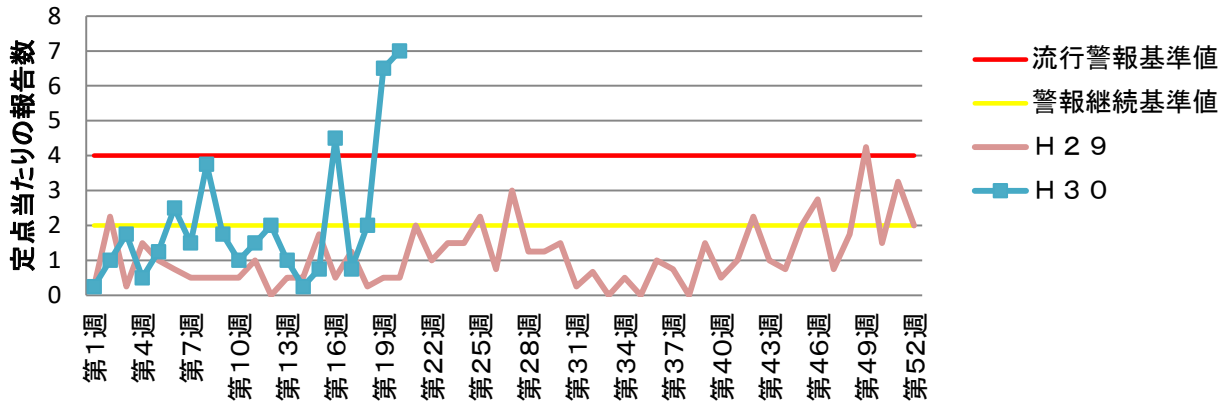
咽頭結膜熱 乙訓管内定点当たり報告数推移



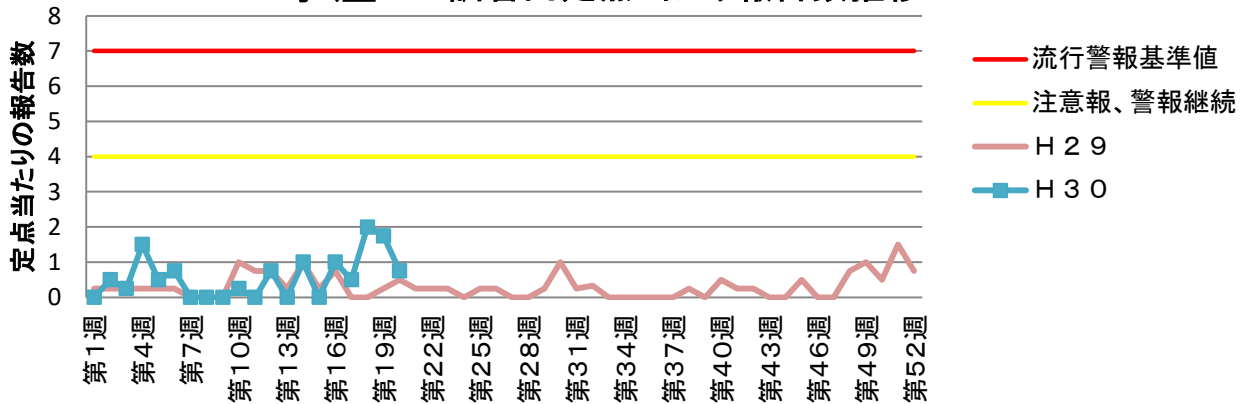
感染性胃腸炎 乙訓管内定点当たり報告数推移



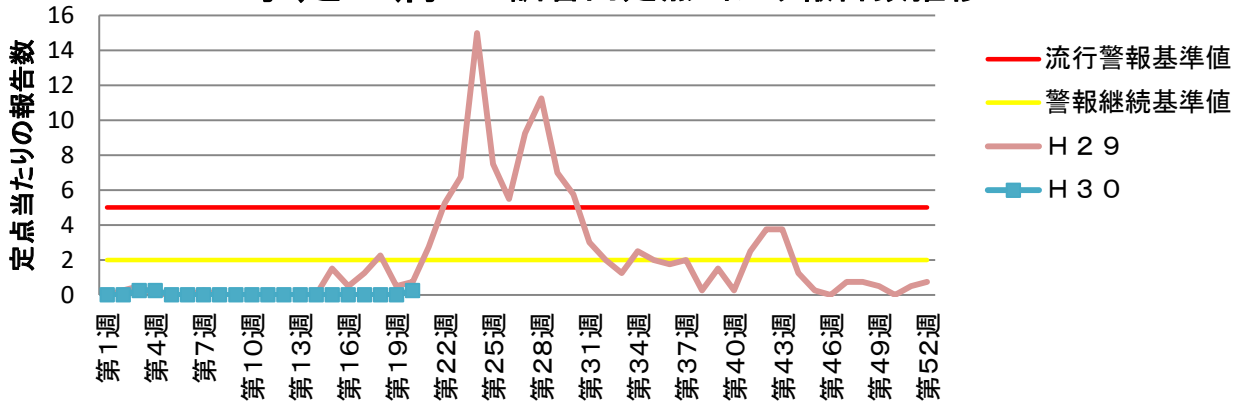
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 乙訓管内定点当たり報告数推移



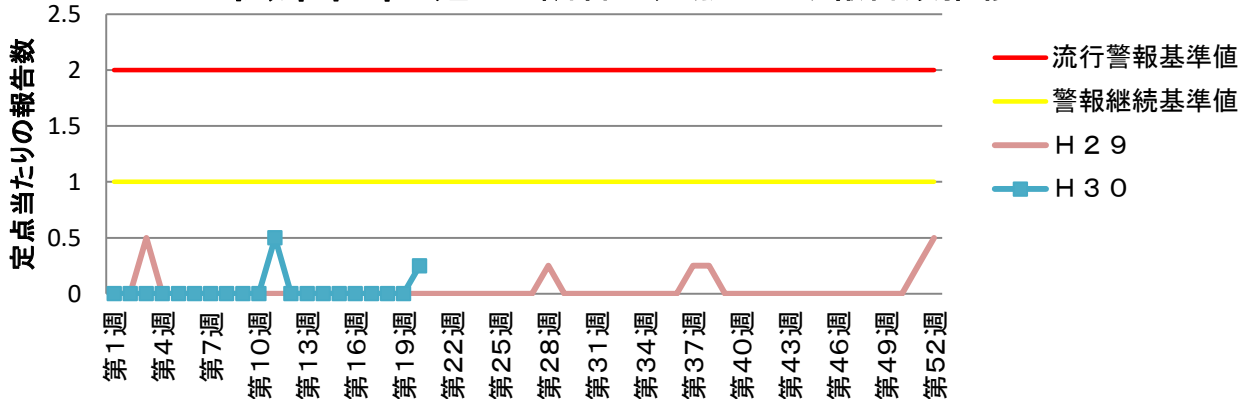
水痘 乙訓管内定点当たり報告数推移



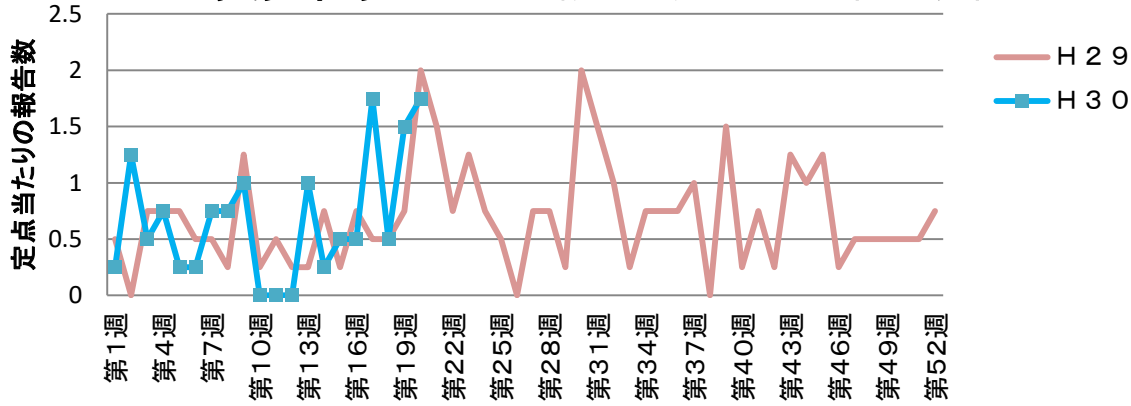
手足口病 乙訓管内定点当たり報告数推移



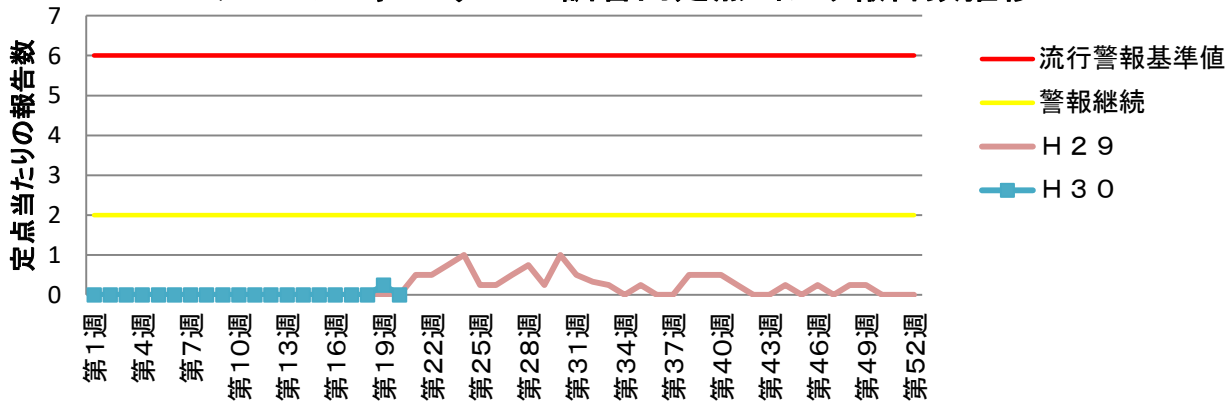
伝染性紅斑 乙訓管内定点当たり報告数推移



突発性発しん 乙訓管内定点当たり報告数推移



ヘルパンギーナ 乙訓管内定点当たり報告数推移



流行性耳下腺炎 乙訓管内定点当たり報告数推移

